

第3回 生活科研究部研修会

『気づきの質を高め、一人一人の成長につながる生活科授業の創造』

令和6年 10月 30日

Aブロック1, 2, 3, 6部会 会場 浜松市立河輪小学校

研究授業 うごく うごく わたしのおもちゃ ～あそんでわくわく！えがお大きくせん～

14:00～14:45

授業者:河輪小学校 第2学年 河村 志穂 先生

活動場所:生活科室、会議室

研究協議 場所:図工室 15:00～16:00

(1) 授業内容

本時まで、子供たちは持ち寄った材料を使ってたくさん遊んだ。その中で、理科の学習への接続にもなる「風の力、ゴムの力、磁石の力、空気の力」に自分たちで気付くことができた。その気づきを生かしてオリジナルのおもちゃを作ろうと考えた。

おもちゃを作った後、友達と話し合ったり様々な遊び方を試したりしながら、自分が願うおもちゃの動きを予想し、「みんながより楽しく遊べる」ようにおもちゃや遊び方を改良する活動することにした。



友達と相談しながら制作



ふりかえりシートの記入



困り感の共有

(2) グループに分かれて協議した内容を全体会で共有

【良かった点】

- 環境整備として、いろいろなものを使っていいと準備していた。
- 教師のあたたかな声掛けで気づきを促していた。
- 子供たちが1年生を意識した話し合いが出来ていた。
- 自分が今日、何をどのように頑張ったのか、言語化する時間をとっていた。

- 子供たちが簡単に書けるワークシートの構成が良かった。
- 子供の前の作品からの変化を具体的にほめることで、頑張りを自覚できた。
- 片付けの際は、音楽を流していて、子供たちが時間を意識できた。
- おもちゃを考える過程を子供に委ねたいという教師の姿勢が良かった。
- 1人の困り感をみんなに共有し、一緒に解決する時間をとっていた。

【改善点】

- 困り感の共有はホワイトボードを利用するなどの工夫がいいと思う。
- 完成して満足した子がいたので、作り方だけでなく遊び方に視点を合わせられるような声掛けをするべき。
- 困ったことをグループで共有する時間を授業の真ん中に位置付けて、みんなで協議する。
- 困ったら先生に聞くのではなく、友達に聞いたりタブレットを活用したりすると良い。



グループ協議の様子

Bブロック4、5、7、8部会 会場 浜松市立都田小学校

研究授業 「もっと なかよし まちたんけん

～みやこ田の「すてき」を見つけよう！～

14:00～14:45

授業者:都田小学校 第2学年 中村 涼 先生

活動場所:音楽室

研究協議 場所:理科室 15:00～16:00

(1) 授業内容

授業は、前单元「どきどき わくわく まちたんけん」や次单元「広がる わたしの生活」との つながりを意識して学習を展開した。児童の思いや願いを実現するために、繰り返し町探検に出掛け、地域にある場所や物だけでなく、地域の人やその人々のしていることについて気付くことができるようにした。そして、それらが自分たちとどのように関わっているかを考えていく中で、自分たちの住む地域のよさに気付くとともに、「都田のすてきなところを大切にしていきたいな。」「お店の人が優しかったから、今度は、家族と一緒に行ってみたいな。」といった地域への親しみや愛着がもてるように心掛けた。

今後は、自分たちが見付けたり、考えたりした地域のよさについて様々な人にも知ってもらいたいという思いから11月に行われる学習発表会で他学年や保護者の方に伝え、広めていけるようにしていく。



前時までの学びを振り返る



ICT 活用の場面



都田の「すてき」を発表



気付きを深める発問



気付きを深めた子どもの発言



板書

(2) グループに分かれて協議した内容を全体で共有

【良かった点】

- 安心して学習に取り組める環境にあり、日々の学級経営の賜物だと感じられる。
- ICT 活用の場が保障されており、子供一人一人がタブレットを駆使して発表していた。
- 教師の吟味された発問や「なぜ?」「どうして?」という切り返しの発問が子供たちの「気付きを深める」ために効果的であった。
- 子供たちの生活経験を生かした発言が多く聞かれた。
- 子供たちが、共通体験をしているので、安心感から発言も活発であった。
- キャリア教育での目指す子供の姿と関わりも確実に授業に位置付けられており、町探検を通して、新たに気付いたことや分かったことから地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考え、身の回りの人々の思いを考えることができていた。
- 単元末には実際に、地域の方々に「願い」「思い」を聞くことができれば、都田への愛着心がさらに深まると感じる。
- 終末では、地域の人々の思いや気持ちが伝わり、商店主にお会いしたい思いに駆られた。

【改善点】

- グループで話し合った後、全体で発表したが、発表内容に高まりが若干感じられなかった。グループでの話し合いの目的を明確化する必要はなかっただろうか。
- ダイナミックな板書であったが、チョークの色分けや子供のつぶやきの記入等があると、子供の気付きを深められたのではないか。
- 子供たちから出された「都田のすてき」を全体で共有する場面を設けてもよかったのではないか。
- インタビューさせていただいた方々の「顔写真」の提示があると、子供たちの思いも深まったと思う。



授業者反省



マトリクスを用いて



熱心な協議



6つのゾーンで構造化



全体で共有



今後生きる研修